

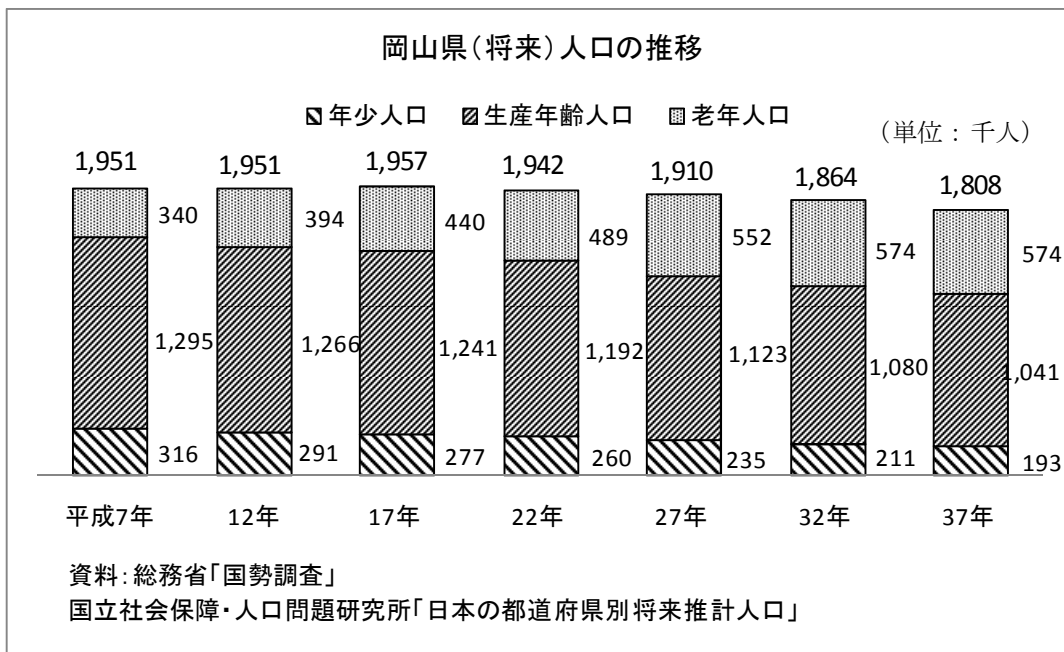
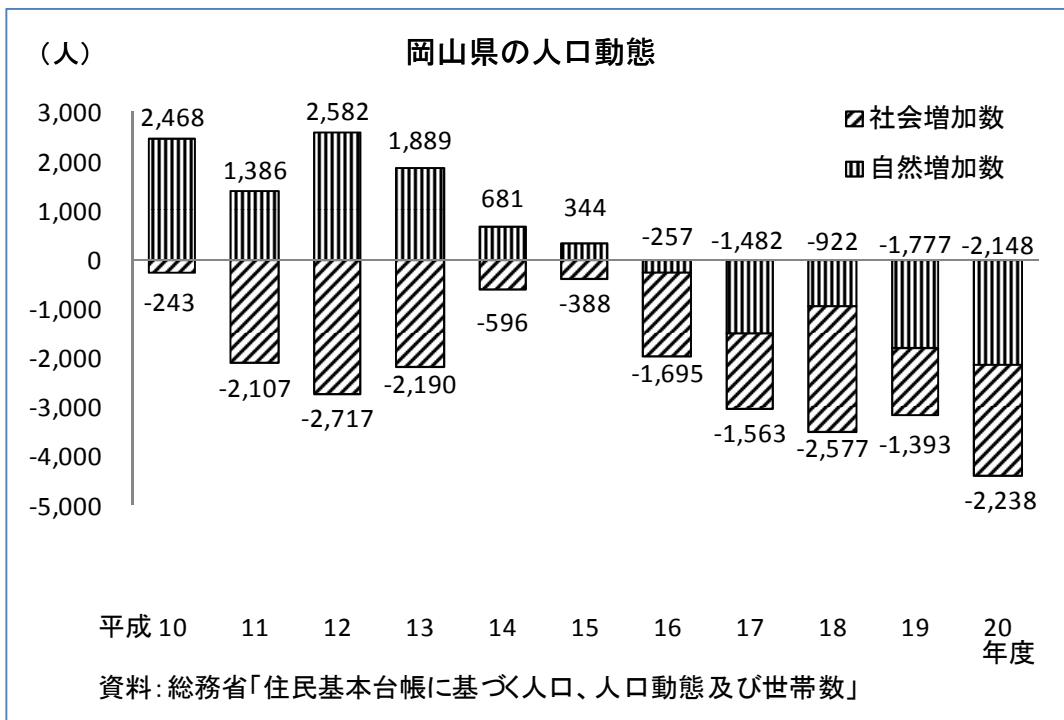
岡山県の経済等の状況

1	岡山県の人口の推移・将来人口	1
2	岡山県の経済の概観	
(1)	県内総生産額	3
(2)	産業構造	4
(3)	国際化	5
3	平成21年の岡山県の経済	
(1)	生産活動	7
(2)	設備投資	7
(3)	貿易	8
(4)	雇用	9
(5)	物価	10
(6)	企業立地	10
4	主な産業の動き	
(1)	鉄鋼	11
(2)	石油精製・化学	11
(3)	自動車	12
(4)	造船	12
(5)	学生服	13
(6)	ジーンズ	13
(7)	工作機械	14
(8)	農業機械	14
(9)	農業	15
(10)	林業	15
(11)	水産業	16
(12)	建設業	16
(13)	運輸・倉庫	17
(14)	観光・レジャー	17

1 岡山県の人口の推移・将来人口

岡山県の人口は、総務省「推計人口（国勢調査結果による補間補正人口）」によると、平成16年の1,959千人をピークに減少している。転出人口が転入人口を上回る「社会減少」が続いているのに加え、16年度以降は死亡者数が出生者数を上回る「自然減少」の状態が定着している。

国立社会保障・人口問題研究所の資料をもとに将来人口をみると、岡山県人口は年々減少し、10年後の平成32年には1,864千人となる見込みである。65歳以上の老年人口は増加するものの、14歳以下の年少人口と15～64歳の生産年齢人口が減少し続けるものと推定されている。

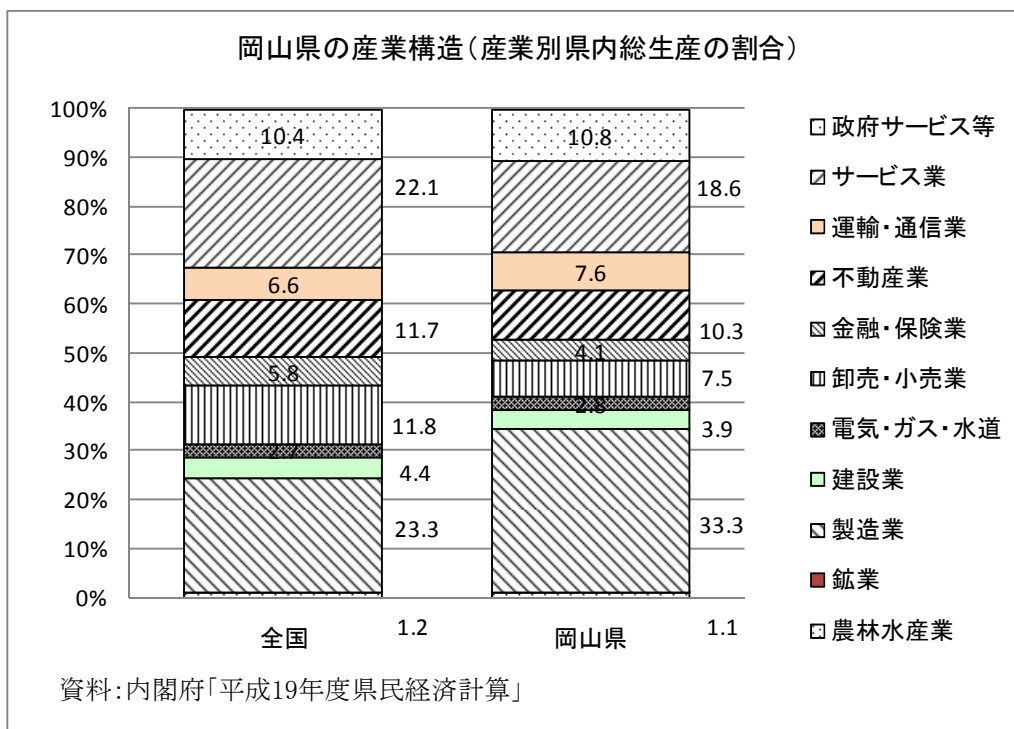
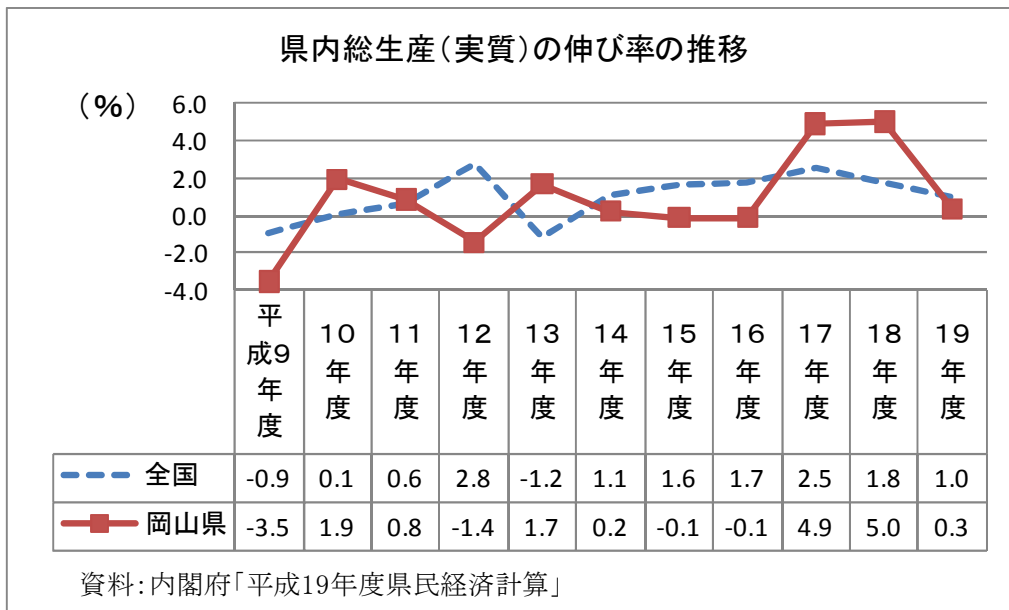


2 岡山県の経済の概観

(1) 県内総生産額

岡山県の県内総生産額は、内閣府「平成19年度県民経済計算」によると8兆1,803億円で、前年度に比べて0.3%増加している。岡山県内総生産額は、全国的に好景気の時には全国平均を上回る伸びを示す（最近では平成10、11、13、17、18年度）ものの、不況期には全国平均を下回る増加率となり、全国平均以上に大幅な変動を示している。

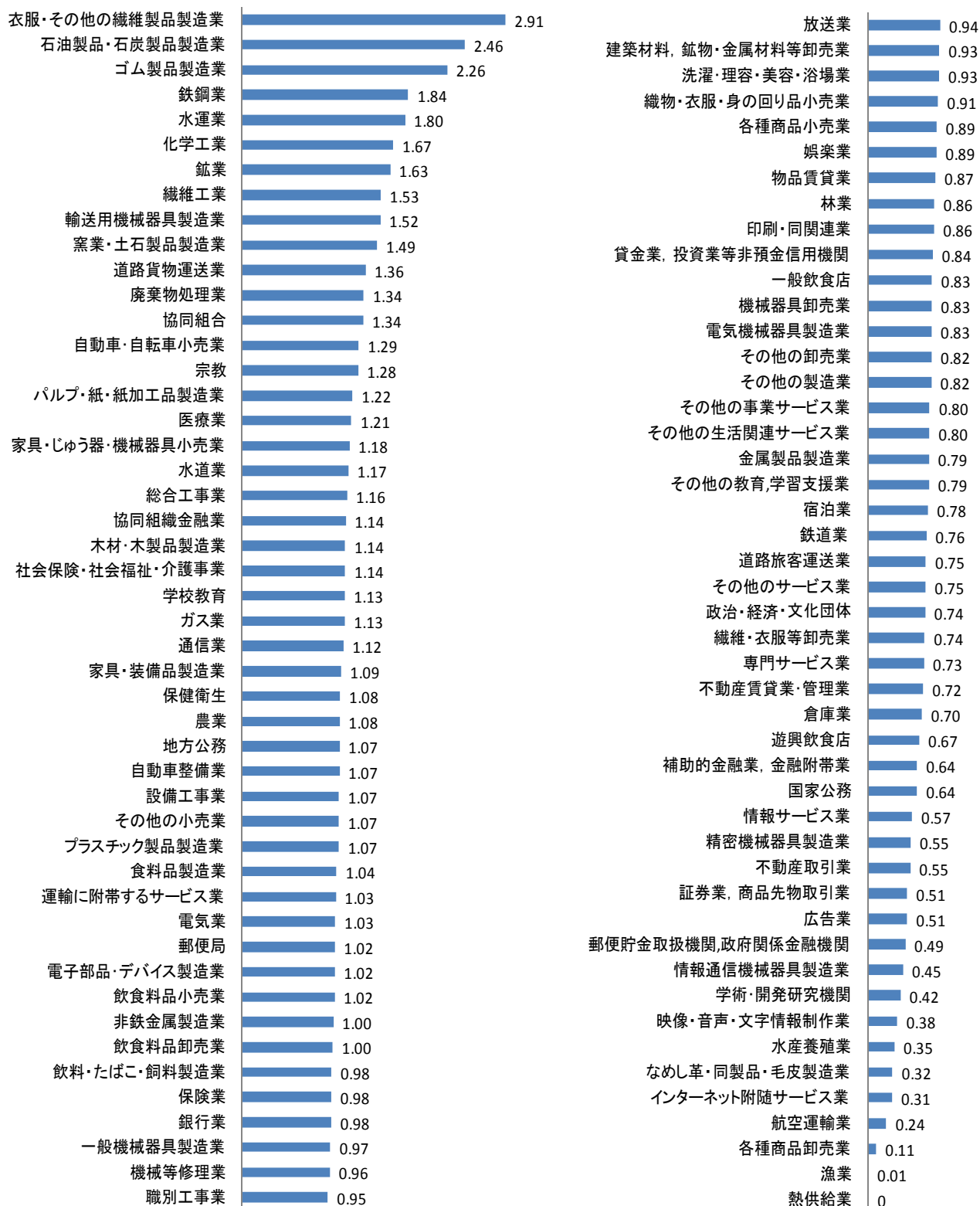
岡山県内総生産額の変動幅が大きいのは、全国平均に比べて製造業の集積が高いからである。産業別県内総生産の割合をみると、岡山県では全国に比べて製造業と運輸・通信業の割合が大きく、卸売・小売業、サービス業、金融・保険業などの割合が小さいという特徴がみられる。



(2) 産業構造

岡山県産業構造の特徴を、事業所従業者数をもとにした特化係数で見ると、岡山県は全国平均に比べて石油、鉄鋼、化学、輸送用機械など水島地域立地企業関連産業の集積が高いほか、それに関連する運輸業、廃棄物処理業、地場産業の繊維・衣服、ゴム、窯業などの製造業と、協同組合、医療業などの集積が高くなっている。

岡山県の産業中分類別特化係数

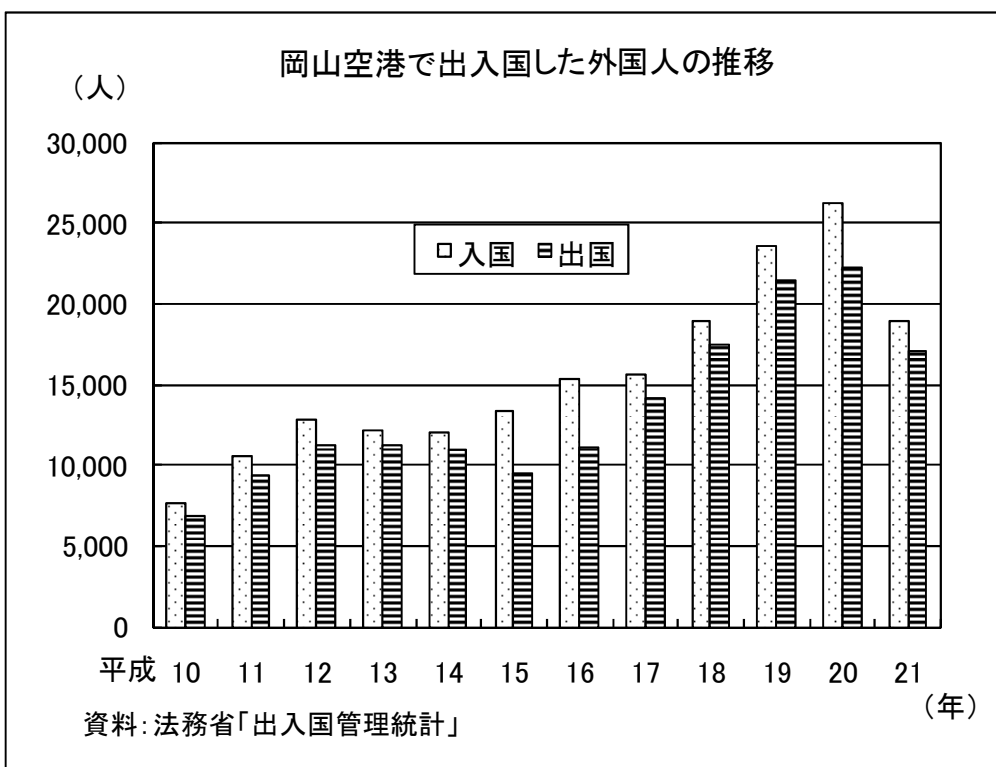
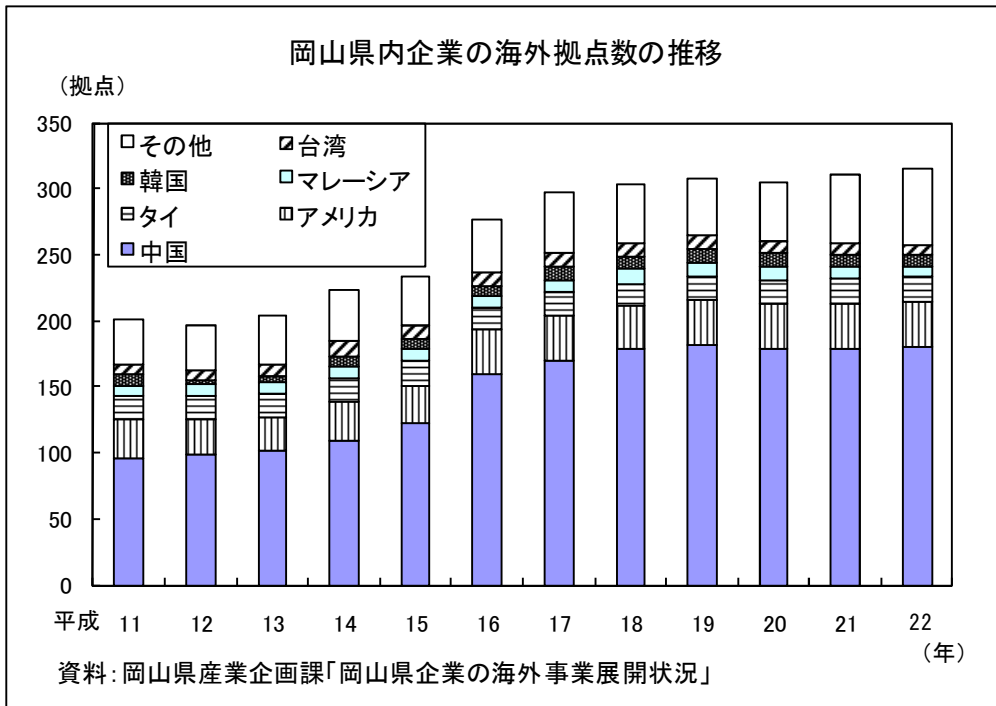


資料：総務省「事業所・企業統計調査」平成18年

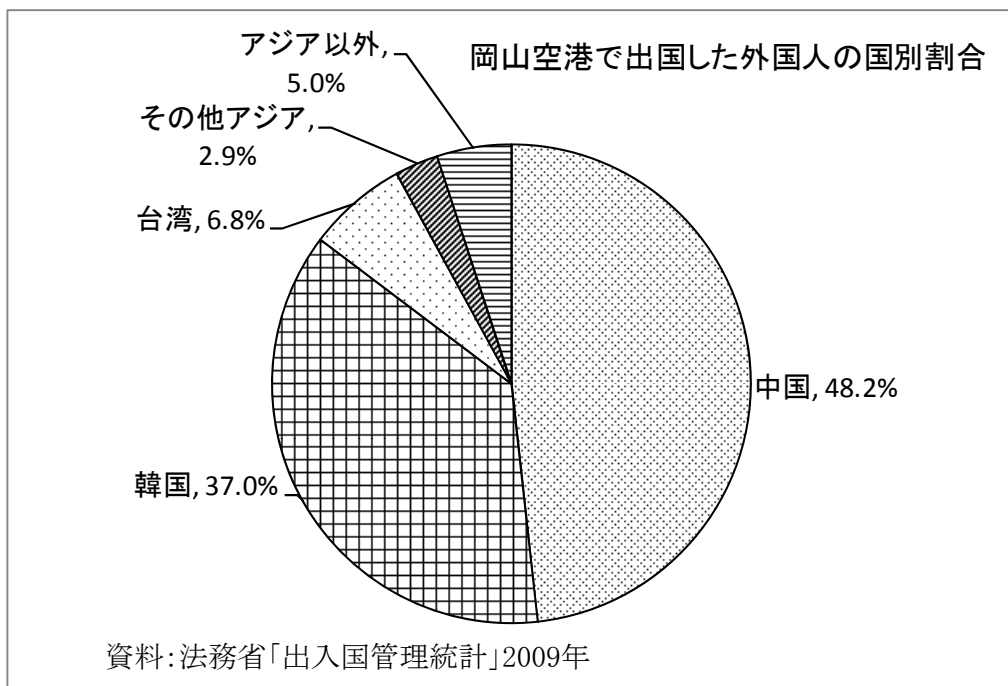
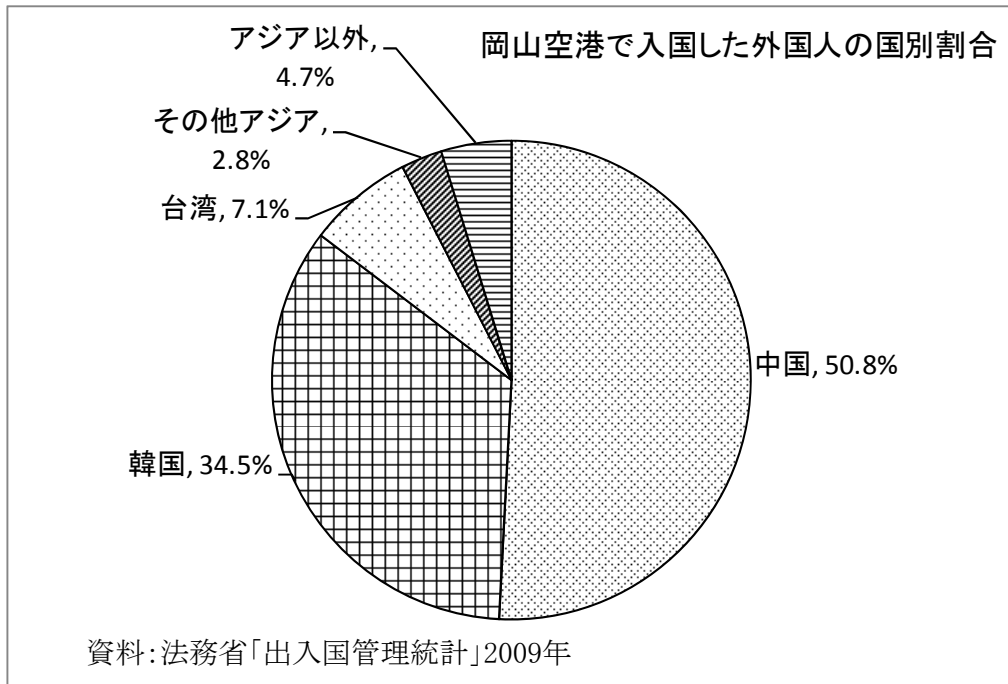
(3) 国際化

平成21年12月末現在、海外に事業所を設置している県内企業は166社。24カ国・地域に、315カ所の海外事業所を設置している。近年では円高の進んだ14～16年に中国を中心に海外展開が進んだ。現在では進出先の57.1%（事業所数ベース）が中国である。また、最近ではベトナムへの進出が活発であり、18～21年に9カ所の海外事業所が設置されている。

岡山空港で出入国する外国人数が年々増加している。20年後半以降はリーマン・ショックの関連で減少しているものの、20年には延べ48,498人が出入国している。



岡山空港を利用して出入国する外国人のほとんどは中国、韓国、台湾などのアジアの人であり、入国者の95.3%、出国者の95.0%を占めている。

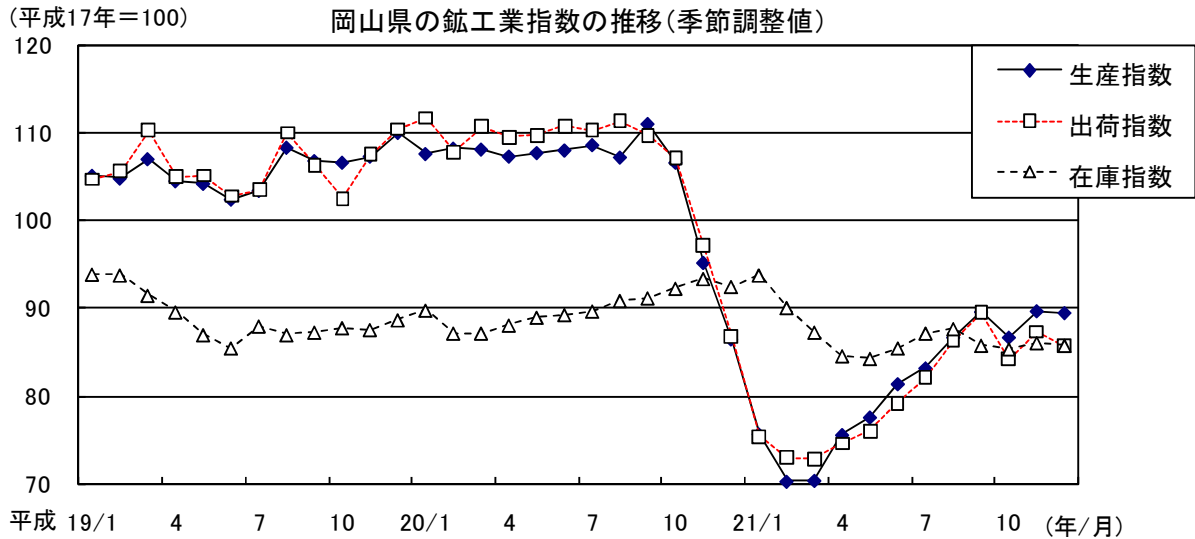


3 平成21年の岡山県の経済

(1) 生産活動

平成21年の岡山県鉱工業生産指数（年平均）は、81.1（前年比23.0%低下）となり、2年連続で低下した。リーマン・ショック直前の20年9月と比べて、21年2月には63.3%の水準まで急減し、その後回復しているものの21年12月時点では80.6%の水準である。

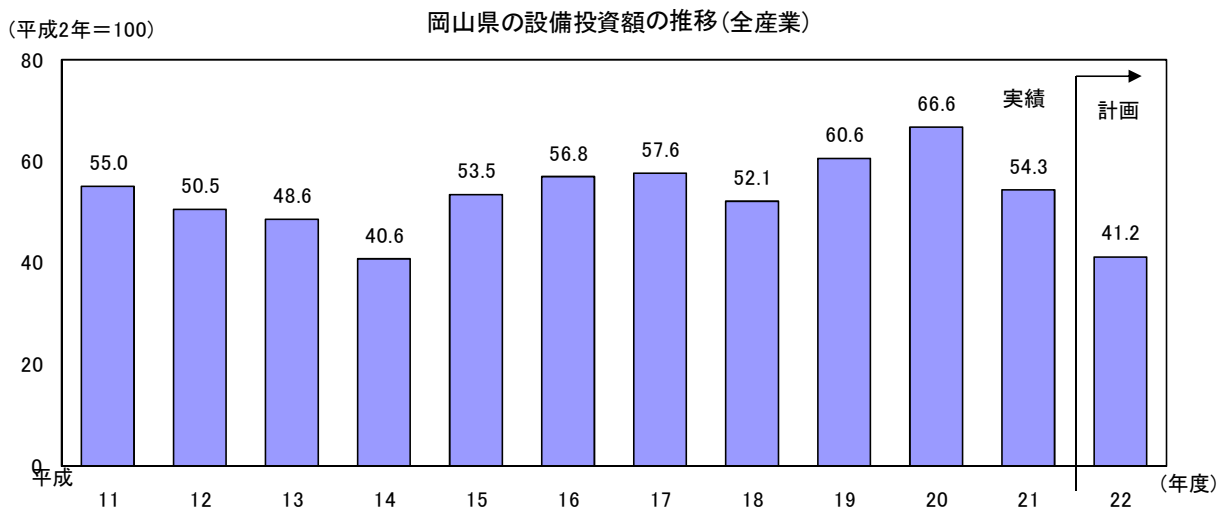
業種別にみると、自動車、一般機械などの回復が遅れている。



(2) 設備投資

日本銀行岡山支店の調査によると、平成21年度の岡山県の設備投資実績は前年比18.6%減と、3年ぶりに減少した。製造業では、素材業種が石油・石炭製品を中心に前年を上回ったものの、加工業種が輸送用機械、電気機械を中心に約50%も前年を下回ったため、全体でも前年を下回った。非製造業でも、電気・ガス、小売、などを中心に、前年を下回った。

22年度は、同年6月調査時点では前年比24.0%減となる見込みである。

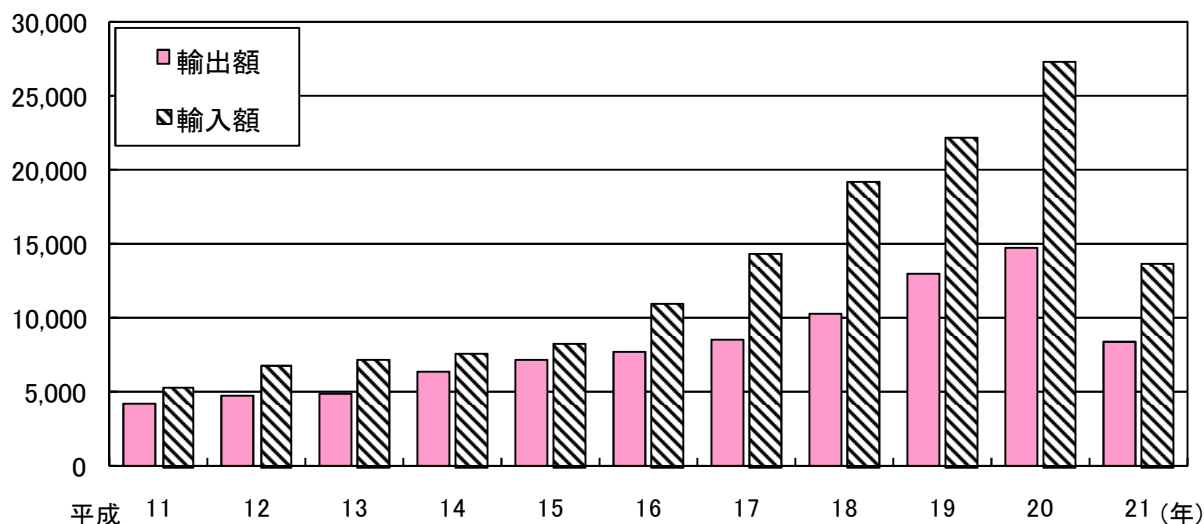


(3) 貿易

平成21年の岡山県の輸出額（通関ベース）は8,417億円（前年比43.2%減）と、10年ぶりの前年割れとなった。20年10月以降、世界経済の悪化を受けて自動車、鉄鋼、化学などの県内主要産業で輸出額が急減した。ただし、21年半ばには輸出額は持ち直しに転じ、12月には14カ月ぶりに前年比増加となった。

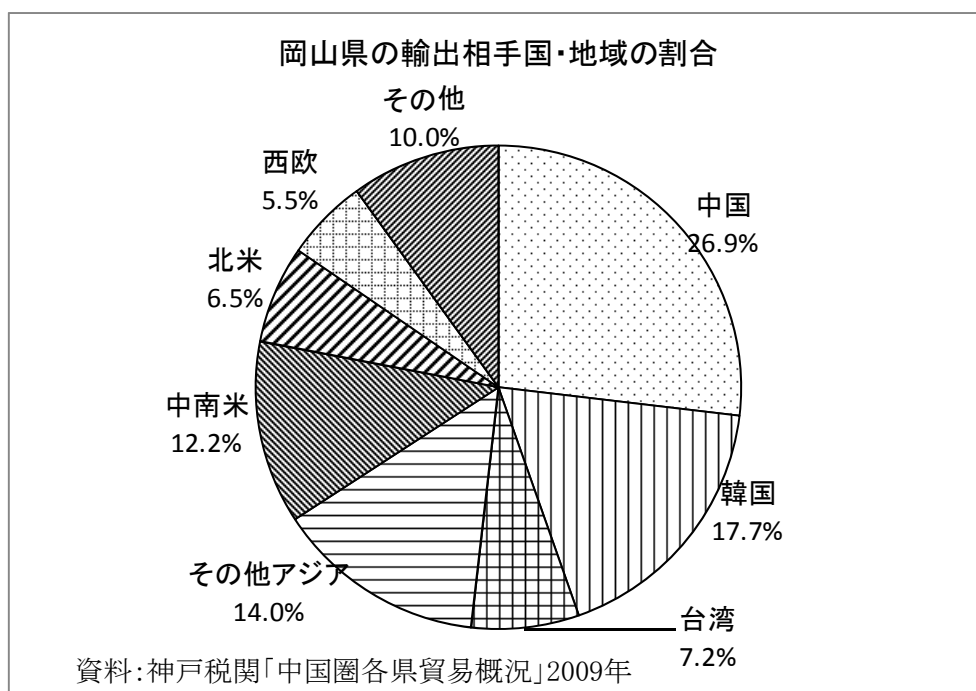
輸出額の減少に伴って、原材料を中心とする輸入額も減少し、21年は1兆3,692億円と、前年比50.0%減少した。

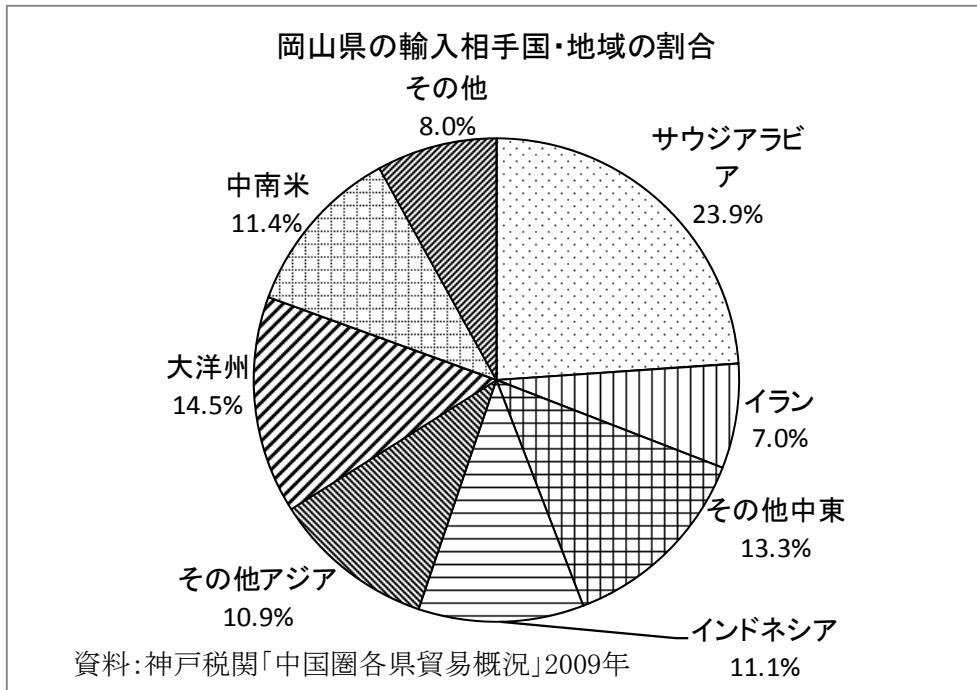
(単位:億円) 岡山県の貿易額の推移



注：通関ベース 資料：神戸税関「中国圏各県貿易統計」

岡山県の輸出相手国・地域は、中国、韓国をはじめとするアジア地域が65.8%を占めている。次いで中南米、北米、西欧の順となっている。一方、輸入相手国・地域では、原油等の輸入が多いことから、サウジアラビア、イランなどの中東地域が44.1%、次いでインドネシアなどのアジア地域が21.9%の順である。

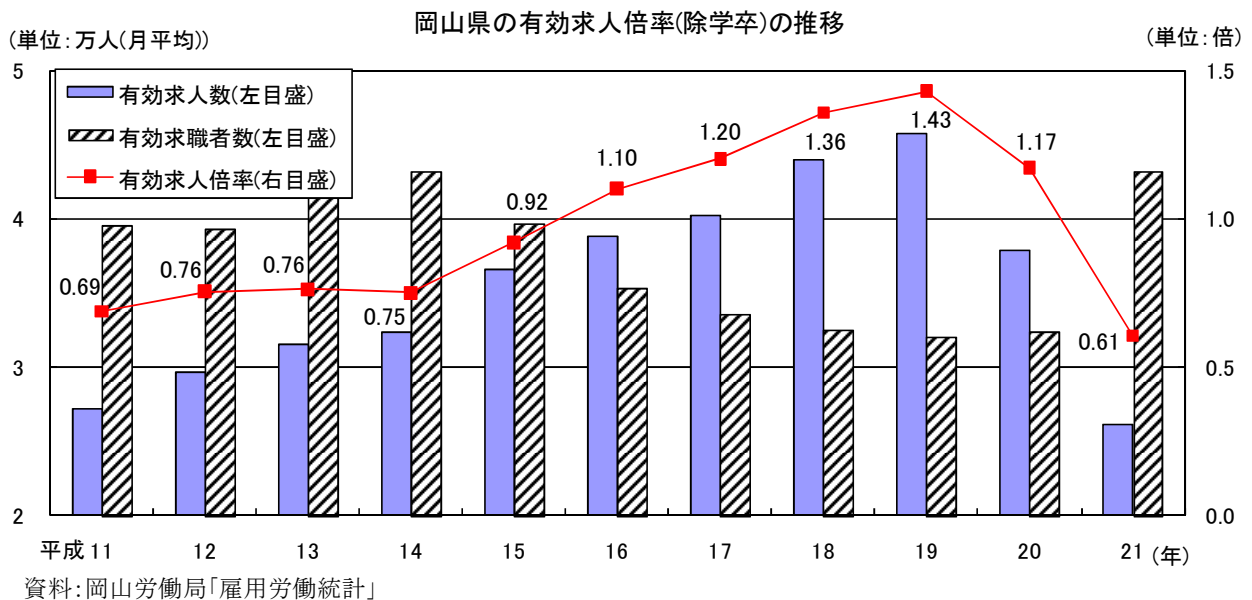




(4) 雇用

平成21年の岡山県の有効求人倍率は0.61倍と、2年連続して低下した。求職者数が増加する一方、求人数はすべての業種で減少した。

平成21年10～12月期の失業率は4.8%と、1年前に比べて1ポイント悪化した。非正規雇用者を中心に失業者数が大幅に増加した。

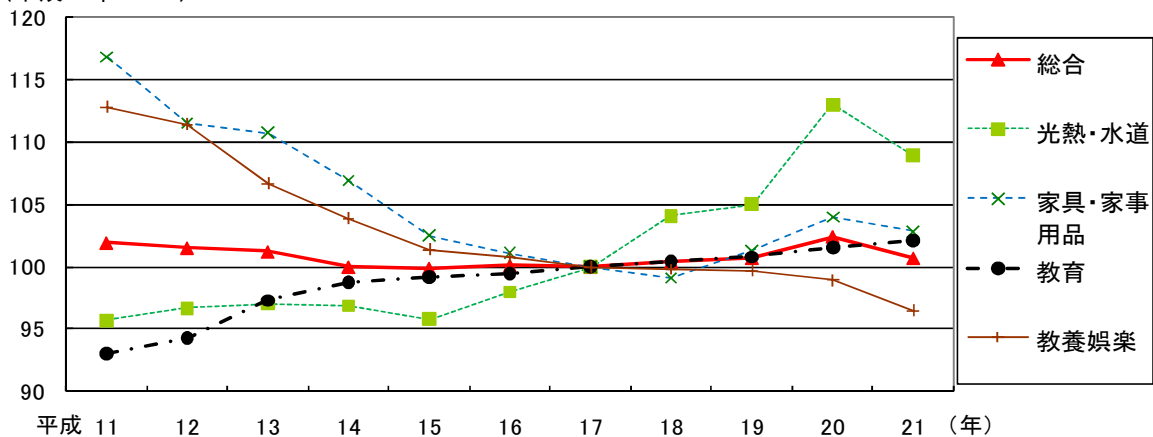


(5) 物価

平成21年の岡山市の消費者物価指数（総合）は100.7（平成17年＝100）となり、前年比1.7ポイント低下した。20年に高騰した原油価格や食料品価格の反動で4年ぶりに低下した。

主な品目別に中長期の推移をみると、教養娯楽や家具・家事用品は総じて低下傾向にあるが、教育は上昇傾向が続いている。

(平成17年＝100) 岡山市の消費者物価指数の推移（総合＋変動幅の大きい4費目）



資料:総務省統計局「消費者物価指数年報」

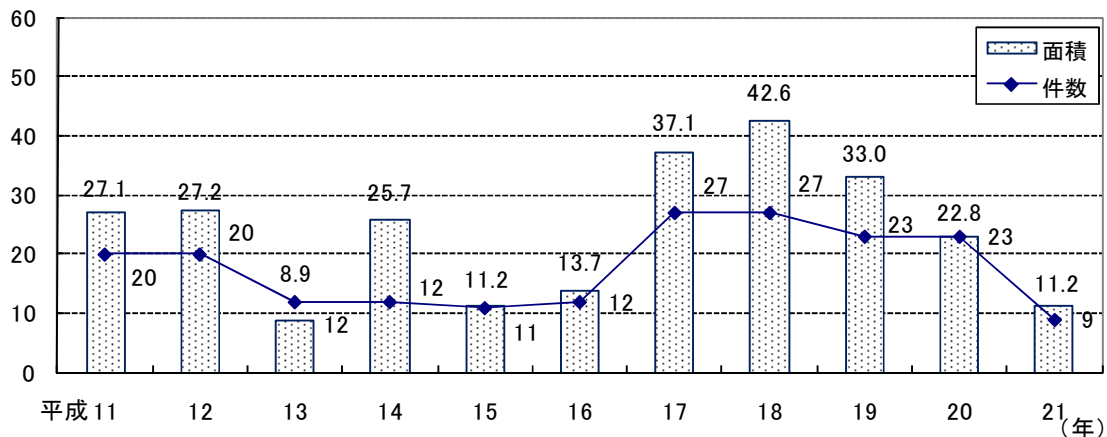
(6) 企業立地

岡山県内への工場立地は、経済環境の悪化などから大幅に減少している。中国経済産業局の工場立地動向調査によると、平成21年の工場立地件数は9件、立地面積は11.2haで、前年比でみるとそれぞれ60.9%減、53.8%減となった。

岡山県では21年4月以降、工場撤退のニュースが相次いでいる。新聞記事等によると、曙ブレーキ山陽製造(株)総社工場（従業者数約150名）、倉敷紡績(株)岡山工場（同約66名）、東海ゴム工業(株)岡山製作所（同約110名）、トステム(株)勝央工場（同約154名）、日本モレックス(株)岡山工場（同約200名）、パナソニック(株)ライティング社岡山工場（同約300名）などの撤退が伝えられている。

工場立地件数、面積の推移

(単位:件、ha)

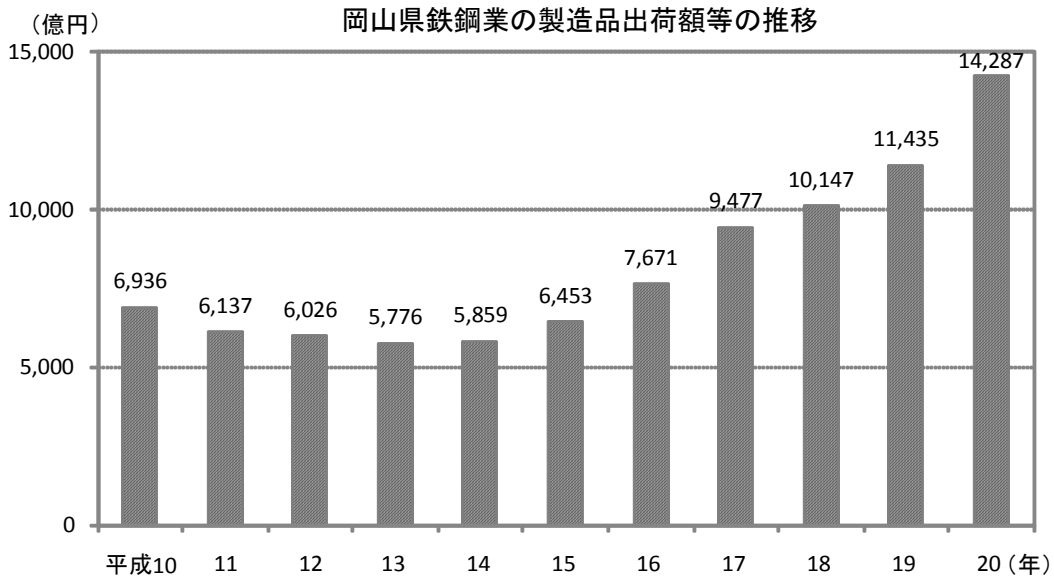


資料:中国経済産業局「工場立地動向調査結果」

4 主な産業の動き

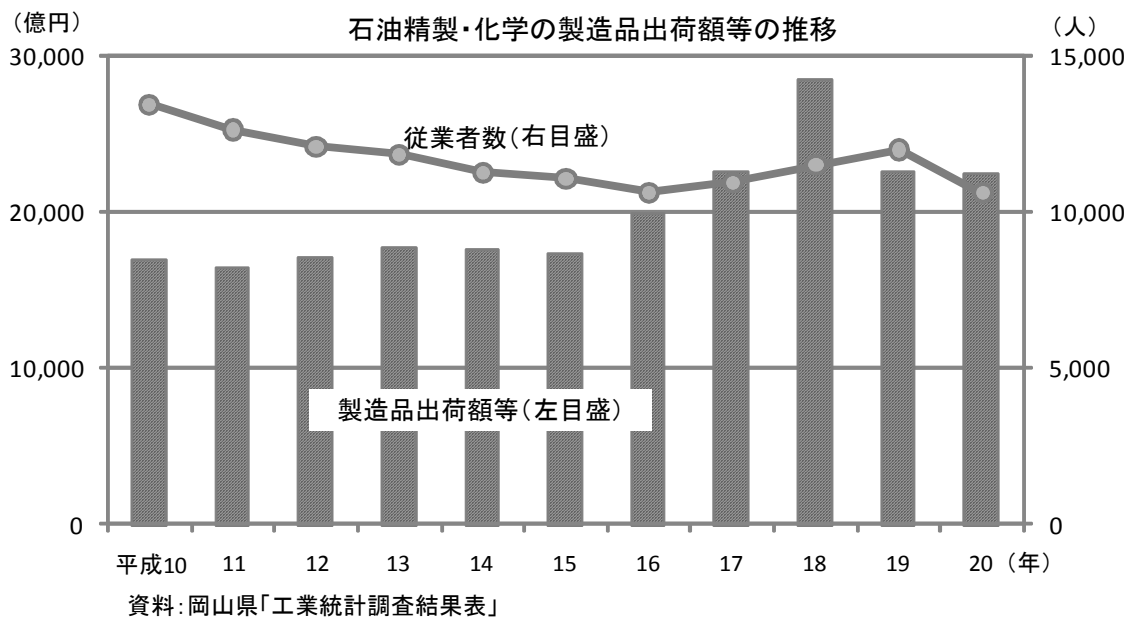
(1) 鉄鋼

倉敷市水島地区にJFEスチール西日本製鉄所倉敷地区、東京製鐵岡山工場が立地し、国内でも有数の鉄鋼生産拠点となっている。鉄鋼業の製造品出荷額等をみると、平成15年以降は韓国などアジア諸国への輸出増に支えられて増加基調で推移してきたが、平成21年は前年比3割減となったもようである。岡山県の全国シェアは5.9%（平成20年）。



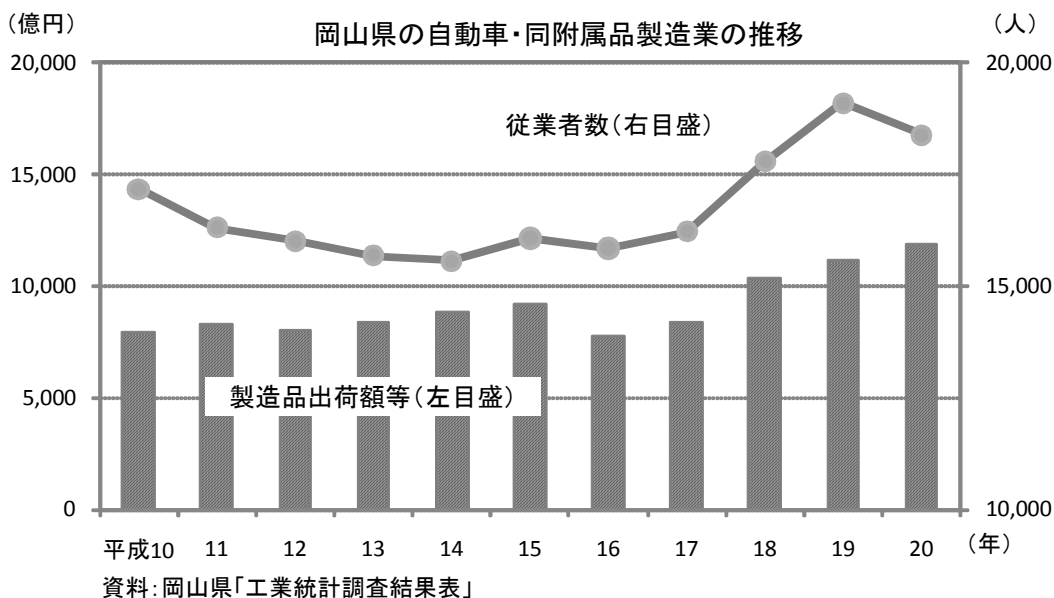
(2) 石油精製・化学

倉敷市水島地区には、ガソリン・ナフサ等を生産する製油所、各種石油化学製品の生産工場が集積し、石油化学コンビナートが形成されている。製造品出荷額等にみた岡山県の石油精製・化学の全国シェアは5.3%である（平成20年）。近年ではアジア諸国で大型石油化学プラントが立ち上がり、国際競争が激化している中で、水島地区の各生産拠点は生産体制の見直し、経営合理化を目指した経営統合が進んでいる。平成21年の石油精製・化学の生産量は前年比1割減となっている。



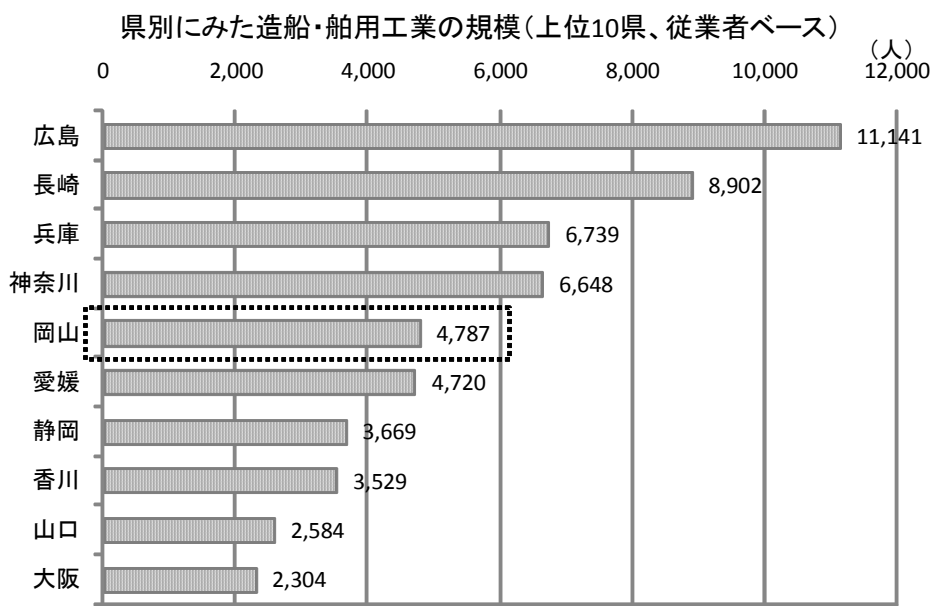
(3) 自動車

当県には、三菱自動車工業の完成車組立工場である水島製作所が操業しているほか、自動車部品メーカーが多数立地している。製造品出荷額等にみた岡山県の自動車・同附属品製造業の全国シェアは2.1%である（平成20年）。平成17年以降は好調な海外需要を背景に増加を辿ったものの、平成21年は前年比5割減と減少に転じたとみられる。平成21年7月には三菱自動車工業は水島製作所で生産される電気自動車を発売するなど、部品メーカーも含めて電気自動車の開発・生産が進められている。



(4) 造船

当県には三井造船玉野事業所、サノヤス・ヒシノ明昌水島製造所という大規模造船所が立地し、製造品出荷額等にみた岡山県の造船・船用工業の全国シェアは7.0%を占めている（平成20年）。船用工業製品においては県内にディーゼルエンジンなど船用内燃機関や、船用プロペラの生産に高いシェアを持つ事業所が存在する。平成21年の状況は、各造船所とも豊富な受注残により高操業を維持した。

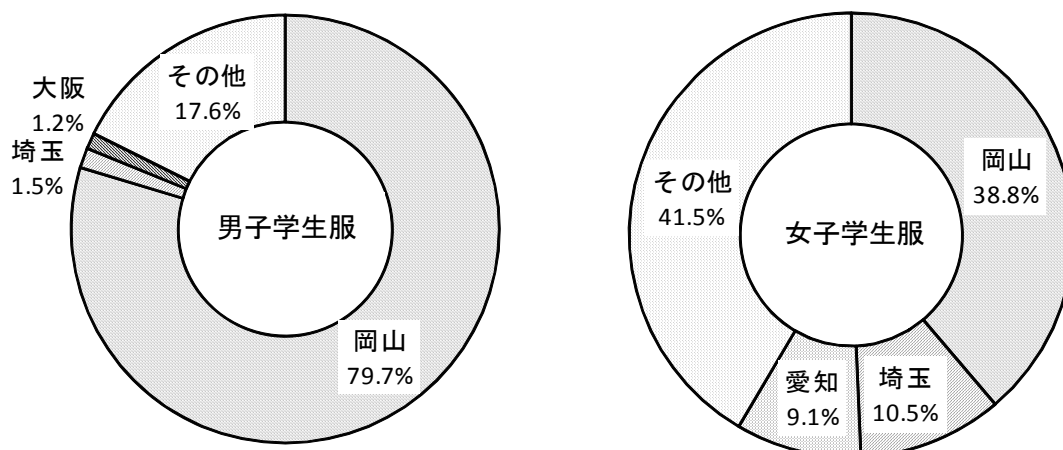


注：造船・船用工業とは産業小分類「船舶製造・修理業、船用機関製造業」とする。
資料：事業所・企業統計(平成18年)

(5) 学生服

学生服製造業は岡山県を代表する地場産業で、製造品出荷額等にみた岡山県の全国シェアは67.2%を占めている（平成19年）。男女別では、男子学生服は全国の約8割、女子学生服は約4割となっている。ただし、少子化による生徒数の減少を背景に、学生服市場は縮小していることから、学生服製造業の事業所数、出荷額は長期的な減少傾向が続いている。

学生服出荷額の都道府県シェア(男女別)



注1: 男子学生服は成人男子・少年用学校服上衣・オーバーコート類、ズボン

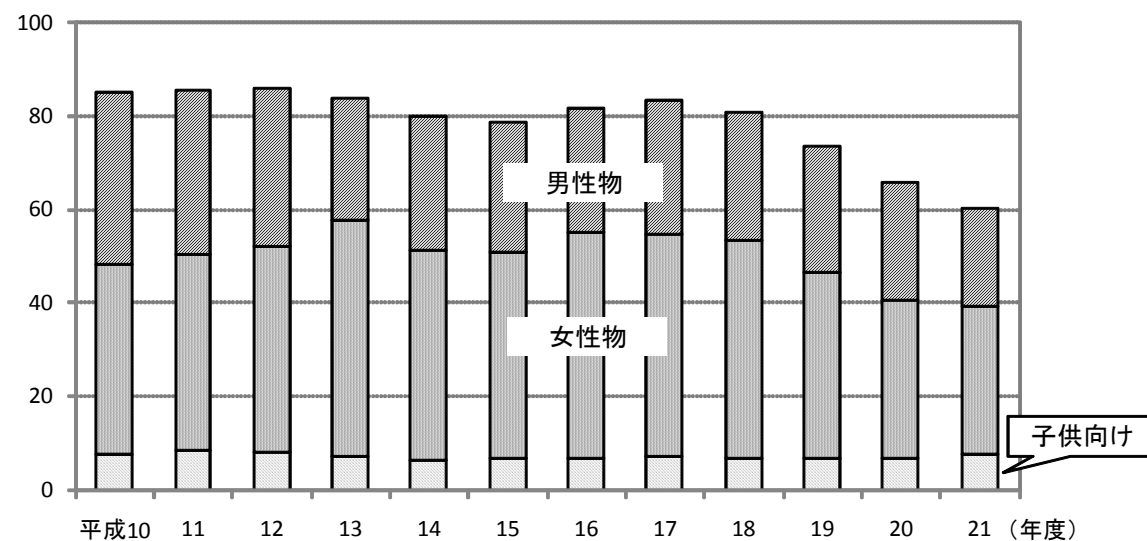
注2: 女子学生服は成人女子・少女用学校服上衣・オーバーコート類、スカート・ズボン

資料: 経済産業省「平成20年工業統計表 品目編」

(6) ジーンズ

倉敷市児島地区と井原市を中心とする地域は、ジーンズの産地として全国に知られている。特に県内には、ジーンズ生地であるデニムのメーカー、染色・洗い加工事業者、縫製メーカーなど関連企業が集積し、産地内での一貫生産が可能な強みを有している。しかし、近年のジーンズ製品の生産量は、ヒット商品の不在、ジーンズ以外のファッションアイテムへの多様化を要因に減少傾向が強まっている。

ジーンズ製品生産量の推移(全国)

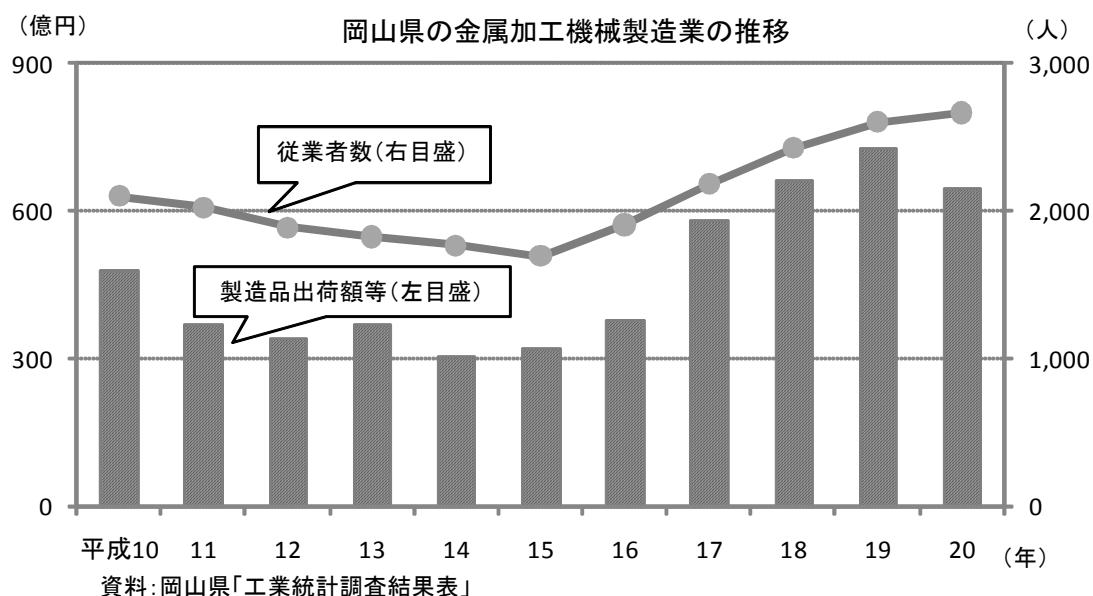


注: 日本ジーンズ協議会に加盟するメーカーの合計生産量であり、国内生産だけでなく輸入も含む。

資料: 日本ジーンズ協議会

(7) 工作機械

工作機械は金属加工に必要とされる機械で、当県には滝澤鉄工所や安田工業などの専業メーカーがNC旋盤やマシニングセンターなどを生産しているほか、工作機械関連メーカーが集積している。製造品出荷額等でみた岡山県の金属加工機械製造業の全国シェアは1.3%である（平成20年）。平成15年以降は増加基調で推移してきたものの、平成20年は減少に転じ、さらに21年は前年比6割減になったもようである。



(8) 農業機械

農業用機械製造業は、伝統的に農業が盛んな岡山県を代表する地場産業で、製造品出荷額等でみた岡山県の農業用機械製造業の全国シェアは6.0%（平成20年）と高い。当県には、現在でも多くの農業機械メーカーが立地し、コンバインや耕うん爪、刈払機、田植機、トラクタ、野菜移植機、農薬噴霧器などの独創的な製品を開発・生産している。平成21年の生産状況は前年に比べて若干の減少にとどまっている。

農業用機械製造業の県別順位(平成20年)

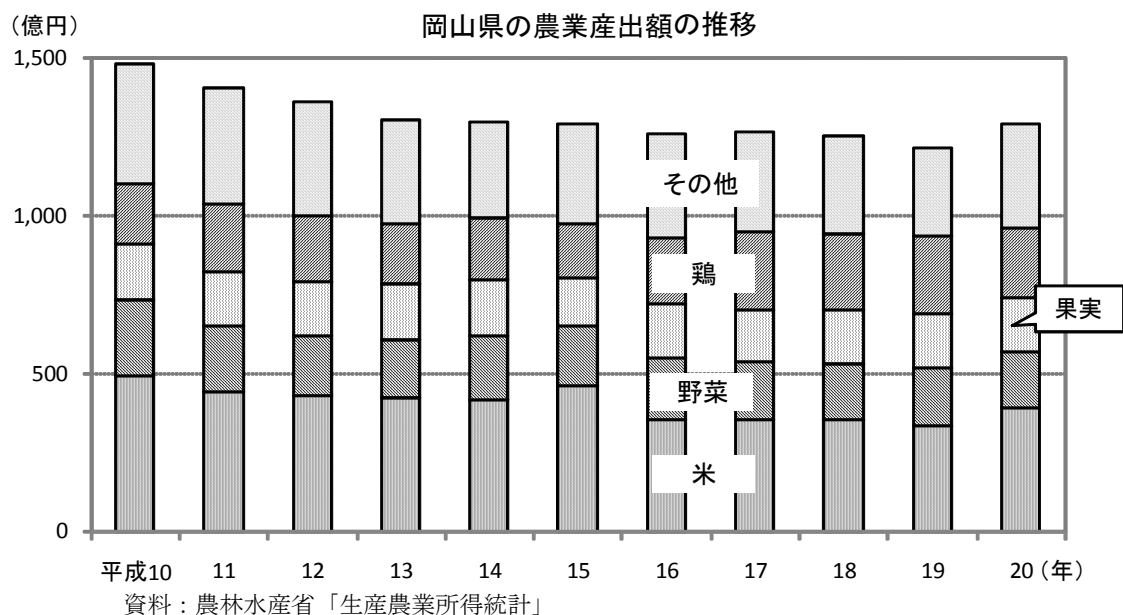
順位	事業所数		従業者数		製造品出荷額等				
	事業所	全国比(%)	人	全国比(%)	億円	全国比(%)			
1位	大阪	109	14.0	大阪	5,423	17.1	大阪	1,854	18.3
2位	岡山	61	7.8	茨城	2,571	8.1	茨城	1,634	16.1
3位	北海道	58	7.5	岡山	2,196	6.9	栃木	848	8.3
4位	新潟	43	5.5	愛媛	1,965	6.2	岡山	606	6.0
5位	長野	41	5.3	広島	1,505	4.8	滋賀	583	5.7
6位	兵庫	36	4.6	北海道	1,331	4.2	静岡	503	5.0
7位	静岡	32	4.1	栃木	1,322	4.2	愛媛	418	4.1
8位	愛媛	27	3.5	静岡	1,290	4.1	広島	376	3.7
9位	栃木	26	3.3	新潟	1,271	4.0	長野	317	3.1
10位	高知	26	3.3	高知	1,213	3.8	高知	316	3.1
	全国	778	100.0	全国	31,642	100.0	全国	10,155	100.0

資料: 経済産業省「平成20年工業統計表 細分類」

(9) 農業

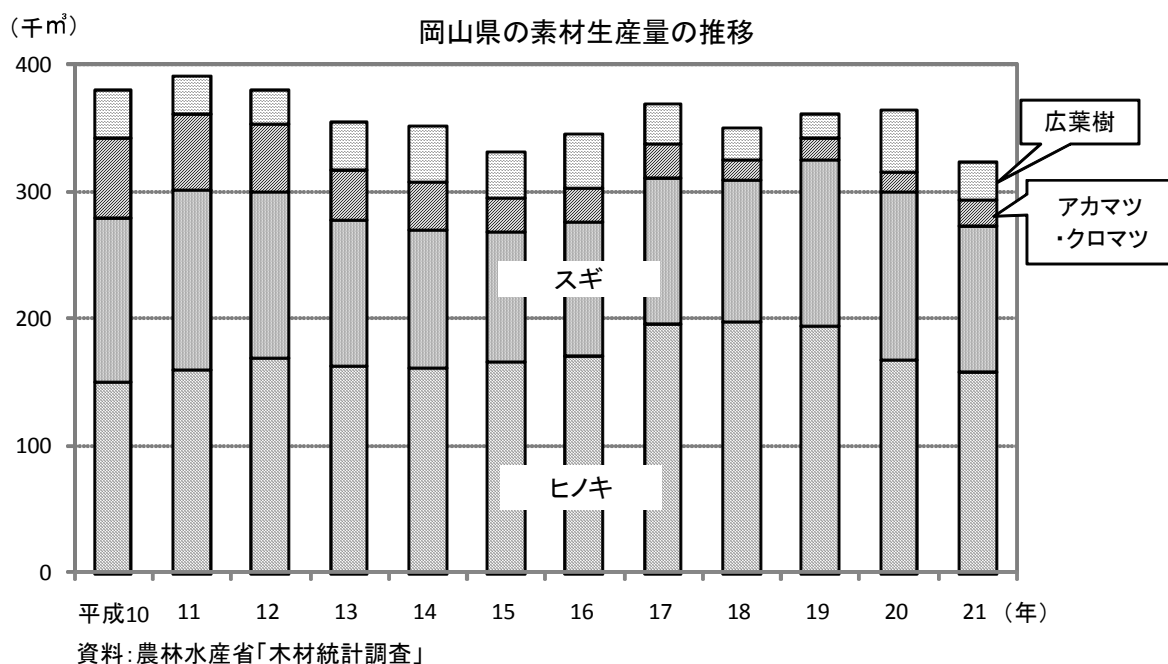
岡山県の農業産出額はここ数年横ばい状態が続いている。農業従事者の高齢化・後継者難による担い手不足、生産者米価の低迷などを背景に、長期的にみても厳しい状況にある。

平成20年の生產品目は米、鶏、野菜、果実の順に多く、マスカット、ピオーネ、白桃などは全国有数の産地で「くだもの王国」として知られる。



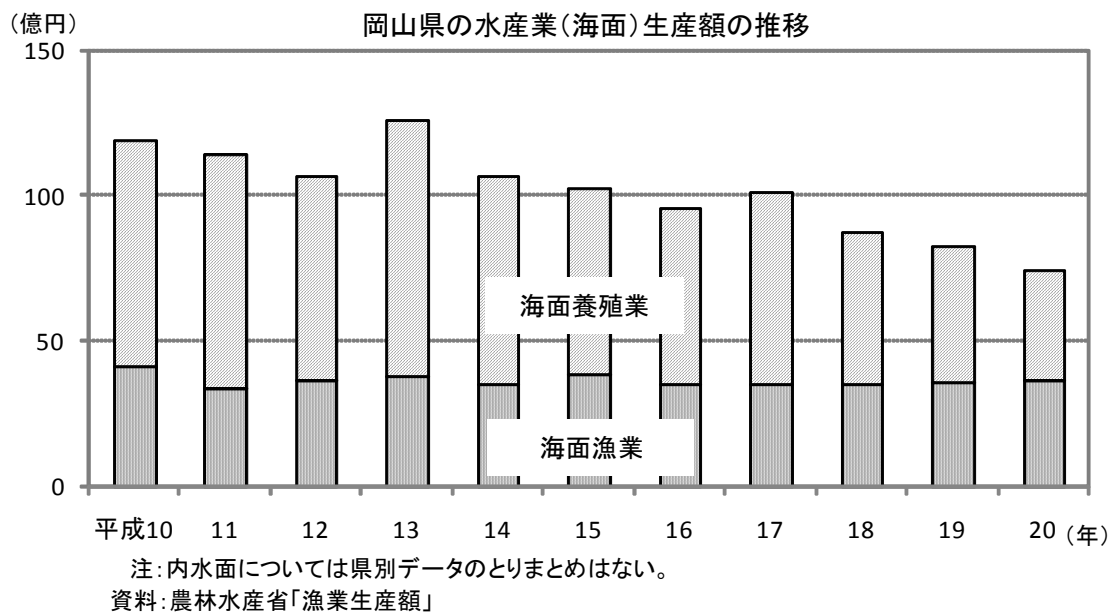
(10) 林業

当県はスギやヒノキの人工林が多く、古くから優良木材の生産が盛んに行われている。近年の岡山県の素材生産量は300千 m^3 台で推移しており、樹種別ではヒノキが全体の約5割を占めているのが本県の特徴である。県北地域には製材工場が多く、中国地方でも有数の木材産地として知られ、製材された木材「美作材」は全国で高い評価を得ている。



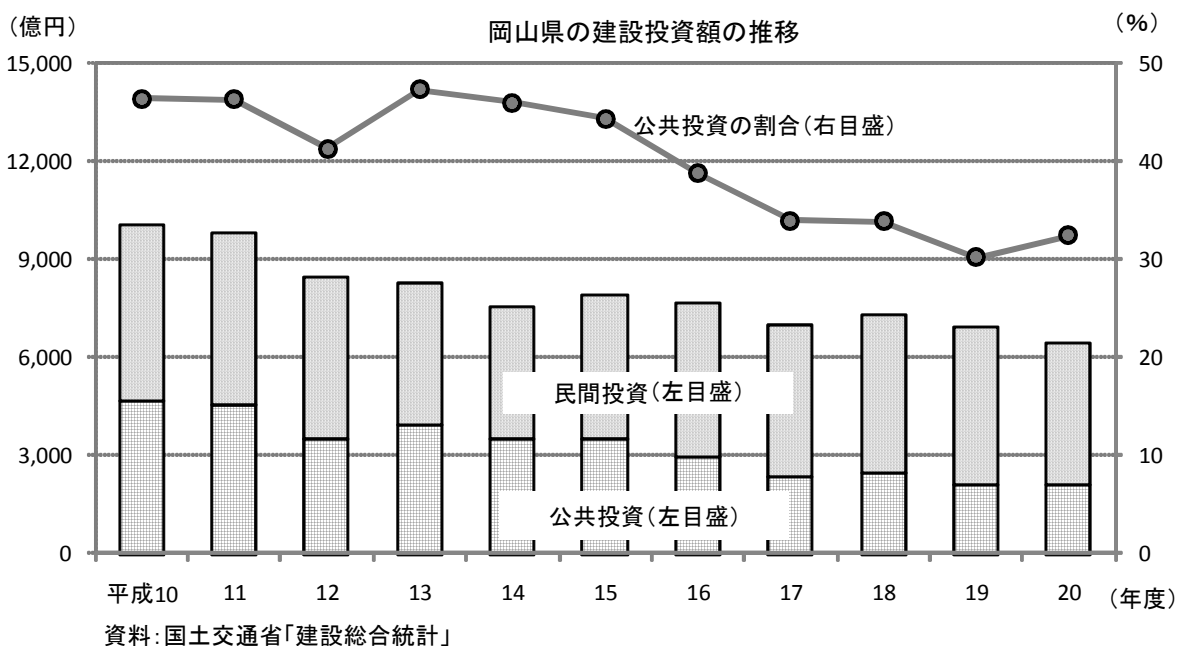
(11) 水産業

当県の水産業は、出荷量全国3位を誇るカキのほか、同10位のノリの養殖が盛んである。近年の水産業生産額をみると、海面漁業がほぼ横ばいで推移しているものの、海面養殖業ではここ数年カキの風評被害、ノリの色落ち被害などが重なって減少している。担い手についても高齢化の進行、後継者難を背景に、漁業経営体数が減少を続けている。



(12) 建設業

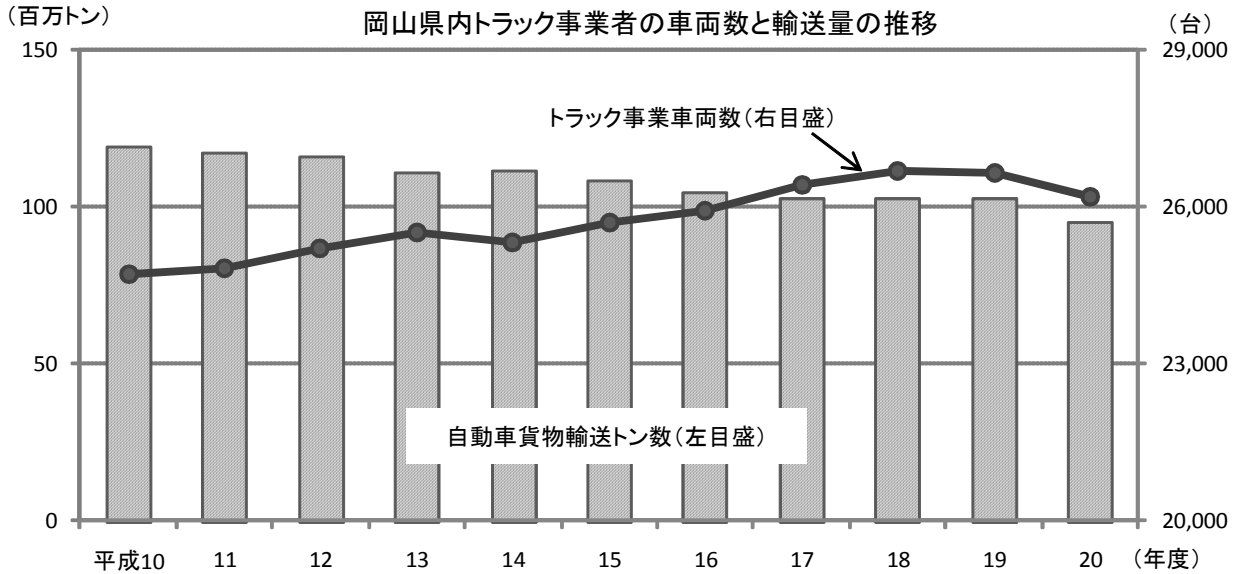
岡山県の建設投資額は6,452億円(平成20年度)で、10年前と比べて36%減少している。民間投資、公共投資ともに減少基調にあり、特に公共投資は今後の方向性が不透明であることから、事業者にとって厳しい経営環境が続くと見込まれる。その結果、建設業許可業者数は10年前に比べて約2割減少している。



(13) 運輸・倉庫

当県の自動車貨物輸送トン数は、建設関連貨物の低調等を要因に減少基調で推移している。県内のトラック事業車両数は参入障壁の低さと規制緩和を受け、厳しい環境下においても増加傾向が続いてきたが、平成19年度からは減少に転じている。

一方、県内の倉庫面積は高速道路網の拡充、流通団地の整備が進んだ1990年代までは増加を辿ってきたものの、平成12年以降は横ばいで推移している。



資料:国土交通省「交通関連統計資料」、中国運輸局「運輸要覧」

(14) 観光・レジャー

平成21年に岡山県内の観光地を訪れた総観光客数は23,806千人であった。倉敷チボリ公園が開園した平成9年をピークにして、観光客数は漸減傾向にある。約5割を占める県外観光客のうち近畿、中国、四国からの観光客が約87%と大半を占めており、観光客の宿泊者率が低い。最近では津山ホルモンうどん、備前市のカキオコなどB級グルメが人気を集めている。

